

2019 年下院総選挙は、インド人民党 (BJP) の勝利か？ —モディ首相率いる第 2 次国民民主同盟政権の継続可能性が大—

令和元年 5 月 20 日

公益財団法人日印協会 理事長 平林 博

去る 4 月 11 日から 5 月 17 日まで、7 回に分けて行われたインド下院 (Lok Sabha) 総選挙の結果は 5 月 23 日の開票を待って確定するが、最近の出口調査の結果によれば、インド人民党 (BJP) が過半数を維持し、2 期目のモディ連立政権 (NDA, 国民民主同盟) がほぼ確実に立った趣である。

インドのマスコミによるとりあえずの選挙結果予想に筆者の (主観的ではあるが) コメントを添えて、皆様にお知らせすることにしたい。

1. 出口調査の結果概要

出口調査は多くのマスコミが行ったが、5 月 20 日付有力な全国紙 (Times of India) がまとめたところによると、下院 545 議席(2 議席は大統領の選任)のうち選挙の対象となった 543 議席中、BJP は 227~291 議席、NDA 全体では 277~352 議席を獲得すると予想されている。したがって、最小限の議席獲得予想 277 議席に従っても、NDA が政権を継続することはほぼ確実にであろう。


これに対し、最大野党の国民会議派 (Congress) は、38~87 議席と予想されている。最小限予想の 38 議席だとすると、国民会議派が獲得した過去の最少の議席数 44 議席を下回る惨敗となる。予想最大数の 87 議席だとすると、国民会議派率いる統一進歩連合 (UPA) が政権を取るためには、現在 UPA を構成している諸政党のほか、ほとんどの政党をさらに反 NDA で糾合することが必要である。したがって、国民会議派がモディ政権に代わって統一進歩連合 (UPA) 政権を樹立することには相当の困難がある。

ただし、出口調査は、わが国のそれと違いかなりの幅を生むことが慣例であるため (集計の仕方やインタビューでの虚偽の回答など)、正式の最終発表では上記の予想と異なった結果となる可能性も排除できない。そうなれば、政権の行方も変わってくる可能性があることに注意をしておきたい。

各マスコミの予想は、下記の表のとおりである (5 月 20 日付 Times of India 紙より転載)

FORECAST FOR NDA: MINIMUM 277, MAXIMUM 352							
Party/ Alliance	Seats won in 2014	Times Now- VMR	India Today- Axis	Today's Chanakya- News 24	News18- Ipsos	Republic- CVoter	ABP- Nielsen
NDA	356	306	352	340	336	287	277
BJP	282	262	287	291	276	236	227
UPA	66	132	93	70	82	128	130
Congress	44	78	38	57	46	80	87
Others	121	104	82	133	124	127	135
TMC	34	28	21	23	37	29	24
SP-BSP-RLD	5	20	13	13	18	40	45

Where the polls indicated a range, we have taken the mid-point, which is why some forecasts may not add up to 542



2. BJP 勝利(予想)の勝因

筆者によれば BJP 勝利の最大の理由は、NDA 政権全体のこれまでのパフォーマンスが評価された結果であろうが、あえて言えば最大の貢献者はモディ首相その人にあると考える。

モディ首相は、インドの政治の安定、経済の成長、各種の法制を含めた古い制度の改革を進めたほか、国際社会においてもインドのプロフィールを大きく引き上げ、大国入りを内外に印象付けた。筆者によれば、「超大国インド」（拙書「最後の超大国インド」一日経BP者発刊—ご参照）への道を順調に進んでいるということである。インド人は、ここ数年大きな自信を抱くようになったが、モディ首相の訴えはその心情にうまく乗ったものといえるのではないか。モディ首相は、国民会議派などからヒンズー至上主義の批判、国民の分断との批判を受け、またイスラム教徒の反発も招いたが、人口の 80%を占めるヒンズー教徒の圧倒的な支持を受けたのであろう。

また、一時期、モディ首相や BJP の劣勢が伝えられたが、パキスタンへの強硬姿勢が成功し、形勢を逆転させた。

去る 2 月 14 日、パキスタンが今まで以上にパキスタン軍の関与が疑われたやり方でジャンム・カシミール州にテロ攻撃を行ったが、モディ首相は、2 月 26 日にインド空軍機をパキスタン領にまで侵入させる形で送り込み、テロリスト基地を空爆した。パキスタンも応戦したが、モディ政権はこれを撃退した。その強硬姿勢が国民の喝さいを浴びたようである。過去三度の印パ戦争を除いては、インドは反撃してもパキスタン支配のカシミール州に限っていたが、今回はカシミールに接するパキスタン領の爆撃まで行い、パキスタンに対しはっきりとレッドラインを設けたのであった。それまでは、総選挙について国民会議派優勢との予想も散見されたが、この反撃の結果、BJP への支持が再度増大したとされる。

3. 国民会議派の敗因（予想）

他方、国民会議派は、ラフル・ガンディー総裁に加え、かねてから人気があり政治力を祖母のインディラ・ガンディー首相に比されてきた妹のプリアンカ・ヴァドーラ女史を第一線に立たせて戦った。NDAの各種政策、特に農民票を意識した格差拡大問題や高額通貨の使用禁止措置などの「失政」を強調したが、NDA側も農民票を重視した各種の選挙公約を発表して対抗した。

4. 主な各党、州ごとの情勢についてのコメント

一最大の州であるウッタル・プラデッシュ州（UP州、議席数80）においては、現在州政権を掌握するBJPが善戦をしたが、これまでお互いに対立していた三つの地域政党が危機感から団結して対抗した。予想では、BJP勝利の予想が多いが、地域政党連合優勢の予想もある。地域政党が団結しない限り、BJPに押される傾向がはっきりした。具体的に言えば、これまでお互いに敵対関係にもあった社会党（SP）と大衆社会党（BSP）が、さらに民族ロークダル（RLD）を誘って三党が選挙協力を行った結果、これら三党が13～45議席を獲得と予想されている。しかし、BJPに勝つことができるかどうか、最終的な票が確定するまではわからない。

なお、国民会議派は、ガンディー兄妹の奮闘にもかかわらず、出口調査予想では、議席数1～2の惨敗である。UP州(ヴァラーナシ)から出馬したモディ首相と同じく同州から出馬したラフル・ガンディー国民会議派総裁は熾烈な選挙運動を行ったが、モディ首相の圧勝といえる。

一モディ首相が州首相を務めていたグジャラート州（GR州）のほか、マディア・プラデッシュ州（MD州）、カルナタカ州（KN州）、ラジャスタン州(RJ州)という大きな州でも、BJPは圧倒的に勝利した。

一南インドのタミルナド州（TM州）は、タミール至上主義的な地域政党の力が極めて強いところであるが、国民会議派が彼らとタイアップしたため、UDAとしては勝利し、BJPないしNDAは負けたことになろう。

一これまでは西ベンガル州(WB州)はママータ・バナジー州首相率いる草の根国民会議派（TMC）、オディッシュ州はナヴィーン・パトナイク州首相率いるビジュ・ジャンタータ・ダル（BJD）の独壇場であり、BJPはなかなか入れなかったが、今回はかなりの議席数でこれら両州への浸透に成功した。

しかし、WB州でTMCの牙城を崩すには至らないとの予想であるが、TMC議席数の3分の1から3分の2程度の票を獲得しそうである。

とりあえずは以上ですが、5月23日の開票結果発表後に、分析評価、その後の展望につ

いて改めてご報告いたしましょう。

なお、この HP 上、また会員にはメールにてご案内いたしましたが、総選挙の結果や今後のインドおよび日印関係の行方などについて、来る 7 月 8 日午後には桜田門外の法曹会館にて、日印協会主催でシンポジウムを開催する予定です。別途、参加を募っておりますので、当 HP をご覧ください。

(了)